

# イネ縞葉枯病の被害抑制に向けた防除対策の推進

県西農林事務所経営・普及部門

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病で、昭和40～60年頃に多発生して問題となりました。近年、本病が再び多発傾向となり、当部門管内では平成23年頃から被害が目立つようになってきています。特に筑西市での発生が多く、ほ場によっては減収も見られることから、地域ぐるみでの防除対策に取り組みました。

## ヒメトビウンカ防除技術の実証

平成26、27年に、水稻の育苗箱施薬および本田防除の防除効果を確認しました。その結果、育苗箱施薬の防除効果が高いこと、また、イネ縞葉枯病の多発地で、育苗箱施薬による初期防除だけでは被害が防ぎきれない場合には、本田防除の併用が有効であることがわかりました。この結果を水稻栽培講習会等で生産者に周知しました。



講習会で対策を周知



コムギでの航空防除

## コムギでのヒメトビウンカ防除

平成27年5月21日に、田谷川土地改良区内に作付けされているコムギにおいて、無人ヘリによる赤かび防除時（第2回目）に、ヒメトビウンカの同時防除を行いました。その実施面積は162haで、同土地改良区内に作付けされているコムギのほぼすべてにあたります。本防除の実施により、コムギ畑でのヒメトビウンカ数を散布前の15%まで低減できることを確認しました。

## ヒメトビウンカ防除対策の啓発・啓蒙

平成26年度に実施した水稻関係の講習会などで、ヒメトビウンカ防除に有効な育苗箱施薬について広く啓発し、実施を働きかけました。その結果、田谷川土地改良区内では、コシヒカリ作付けのほぼすべて（99%以上）で育苗箱施薬が行われました。平成27年度も同様に2月～3月に実施した各種講習会、検討会等で次作に向けた防除対策の指導を行いました。

また、イネ縞葉枯病の防除対策を地域全体で進めるため、28年1月にチラシを作成し、管内市町村やJAから農家へ配付しました。その結果、管内の育苗箱施薬の実施は年々増加しています。



チラシを作成して対策を周知